

ペットと住宅 【清水 満（専門分野：ペット専門住宅）】

FellowLink 倶楽部 2014/05/01 #10 に寄稿

わが国の15歳未満の子供の数は年々減少し、2013年8月1日時点で1,643万6千人。一方、ペットとして飼われている犬猫の数は、ペットフード協会が発表した「平成24年度全国犬猫飼育実態調査」によると、2,061万5千頭。

今やペットの数が子供を大きく上回っているのが日本の現状なのです。現在のペット業界のキーワードは「長寿命化」と「家族化」です。

ペットフードの高品質化や医療技術の進歩によって、ペットの平均寿命が延びたことで、ペットの健康志向も高まり、ペット保健の加入者も増えています。さらに、訪問介護やディケア、ショートステイなど人間と同じようなペット介護ビジネスも発生しています。

そんなペットを家族の一員として考える飼主が多くなり、ペットと暮らす住宅のニーズも高まっています。

私がペット専門の建築士になろうと思ったきっかけは、飼っていた子猫の治療に通っていた動物病院の先生に次のように言われたことです。「獣医は飼主に病気やケガについてアドバイスはできても、ケガの予防やストレス防止のための住環境について詳しくアドバイスはできません」。

私は一級建築士で住環境の専門家です。先生のこの言葉がきっかけで、犬や猫と暮らす住宅とはどのようにしたらいいのだろうかと興味を持ち、ペット専門の建築士人生が始まりました。

ペット業界とはほとんど繋がりの無かった私ですが、ペット業界のめばしい人に直接メールや電話を掛け、ペット業界の現状などのお話を聞かせていただき勉強させて頂きました。

私がペット専門の建築士を始める前から、建材メーカーはペット対応の製品を作っていましたし、ペット対応の住宅はありましたが、ほとんどがペットの問題に対して物理的、対処的な事に対応していました。

例えば、犬は家の中で滑るフローリングのために足腰を痛める事故が多いので、床に滑らない塗装を施したり、滑らない材質の床に貼り替えます。猫はクロス貼りの壁を爪磨ぎでぼろぼろにしてしまうので、腰壁に固い板を貼ったり、表面を強化したクロスを貼るなどです。

床を滑らなくするのは良い事ですが、その前に、飼い犬は遺伝的病気で股関節が悪くなっているかもしれない。その場合は、改装前に獣医さんに相談する事が先決です。

猫の爪磨ぎをする場所をなくせば家は傷つかずきれいなままですが、猫の爪磨ぎには、テリトリーの主張やストレスの発散の意味もあるので、猫の溜まったストレスはどこで発散すればいいのでしょうか。

私は犬や猫の生態学や行動学を勉強し、それをふまえた上で、ペットと暮らす住宅を設計しています。家族の中で一番弱い存在（ペット）のためにプランや設備、素材を考えて住宅を設計するという事は、結局は老人や子供などすべての人間に優しい住宅になるのではないのでしょうか。

最後に、どんなにペットの事を考えて住宅を造ったとしても、家族それぞれがペットに対する対応を誤ってしまうと、最高の設備も最高の内装も無駄になってしまいます。ペットにとって一番大事な住環境は家族なのでから。

参考：清水満氏（わんにゃん健康住宅研究所 所長）が連載しているウェブマガジン「ペットライブス」猫の一休建築士 <http://petlives.jp>